

# かざぐるま



## SPECIAL 『気胸センター』のご紹介

24時間365日気胸患者受け入れを行っています



気胸センター スタッフ

### TOPICS

- 冬休み親子病院見学ツアー
- 市民公開講座『防げる! 誤嚥性肺炎』～知って得する! 飲み込みのメカニズムからトレーニングまで～
- 第16回 ホスピタル・スノーふれあいフェスティバル in2018

### CLOSE UP

- 当院における摂食嚥下リハビリテーションの取り組み
- 連携医療機関のご紹介『桑園糖尿病内科クリニック』
- 市立札幌病院地域医療情報ネットワーク『すずらんネット』の公開情報を拡張しました!

### INFORMATION

- スタッフの方へ「地域連携センター受診相談専用ダイヤル」をご活用ください
- 平成29年度地域医療支援病院実績報告
- 地域連携センターからのご挨拶



## 市立 札幌病院

### 基本理念

すべての患者さんに対して  
その人格・信条を尊重し、  
つねに“やさしさ”をもって診療に専心する

### 運営方針

- ①患者さんの人格を尊重し、患者さんに信頼される医療を行います。
- ②地域医療支援病院として、地域医療の充実・発展に貢献します。
- ③高度急性期・急性期医療を担い、安全で質の高い医療を提供します。
- ④自治体病院として他の医療機関では対応が困難な政策医療を提供します。
- ⑤医療技術の向上を図り、優れた医療従事者を育成します。
- ⑥全職員が連携し、信頼しあう、明るく誇りの持てる「チーム市立札幌病院」を作ります。
- ⑦公営企業として健全な財政運営を図ります。

## 『気胸センター』のご紹介

呼吸器外科 副部長 櫻庭 幹

—24時間365日気胸患者受け入れを行っています

連絡先：**011-726-2211** (代表) “気胸患者の紹介で”とお伝えください—

当センターは2008（平成20）年9月の開設以来、10年目を迎えました。年々紹介頂く患者さんが増え、2017年は延べ172例の治療を行いました。当センターの特徴は原発性自然気胸のみならず、北海道内各施設から難治性気胸の治療依頼も受け入れていることです。2012年4月から2017年12月までに治療を行った延べ829例の実績は（図1）、全身麻酔下での胸腔鏡手術は362例、鎮静下気管支塞栓術は18例、癒着術は22例、選択的カテーテルによるフィブリン糊肺瘻閉鎖術は8例、これらを複数用いた集学的治療は16例でした。様々な治療を駆使しても気瘻を閉鎖できなかった症例は4例でした。次に当科で治療した特徴的症例をお示しします。

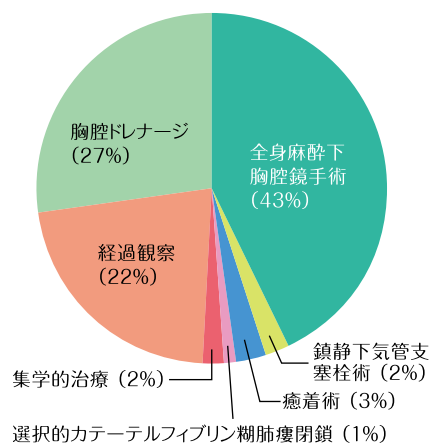


図1. 2012年4月から2017年12月  
当センター829症例の治療法の内訳

## 難治化した気胸症例の治療法

—内科で手を焼く全身麻酔手術困難例に対する治療戦略—

続発性自然気胸症例は、肺基礎疾患を有することが多く、代表的なものに肺気腫、間質性肺炎があげられます。どちらも病状が進行すると酸素投与が必要になり、全身状態も不良となります。特に、間質性肺炎の場合は急性増悪が予後を左右するため、一般的に全身麻酔、胸腔内癒着療法を避ける傾向にあります。当科では、鎮静下での気管支塞栓術（図2）、選択的カテーテルによるフィブリン糊肺瘻閉鎖術（図3）、局所麻酔下胸腔鏡手術を実施し、肺瘻を閉鎖してきました。

高齢者及び合併症を有する気胸症例もたびたび難治化することが多く、全身麻酔非適応症例は、内科管理となりますが、肺瘻を閉鎖することは困難で、ドレナージのみで長期間経過観察することがほとんどでした。このような気胸症例に対しても当センターでは治療を行っています。

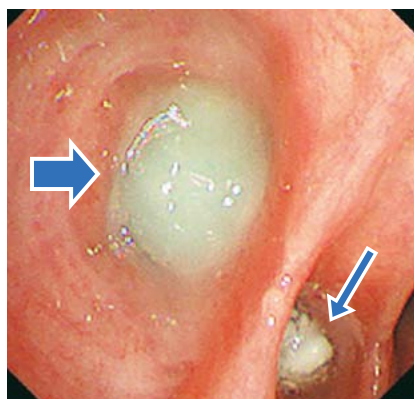


図2. 気管支塞栓術。  
太矢印：ポリグリコール酸シートに  
フィブリン糊を併用し閉鎖したところ。  
細矢印：シリコン製の塞栓子（EWS）で  
閉鎖したところ。

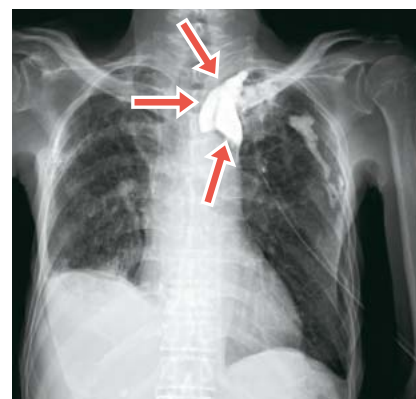


図3. 選択的カテーテルによる  
フィブリン糊肺瘻閉鎖法。  
矢印部分に造影剤で希釈した  
フィブリン糊が貯留している。



症例1：80歳代男性。肺気腫と間質性肺炎を合併した症例、全身麻酔困難症例。ドレナージをしても空気漏れが強く肺拡張が得られない症例でした（図4, 5）。意識清明のまま、局所麻酔下胸腔鏡手術を行い、原因ブラを遮断し空気漏れを閉鎖（図6）。無事転院となりました。

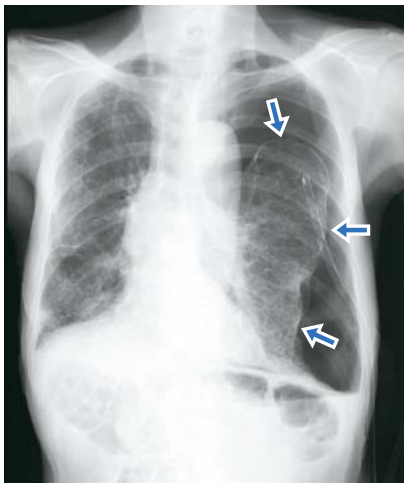


図4. 胸部レントゲン写真。矢印が肺の輪郭。高度の虚脱を認める。

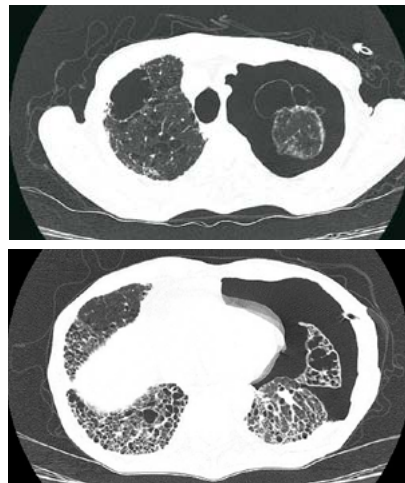


図5. 胸部CT写真。上段は肺尖部。右は気腫性変化、左は肺嚢胞を認める。下段は肺底部。両側ともに高度の線維化を認める。

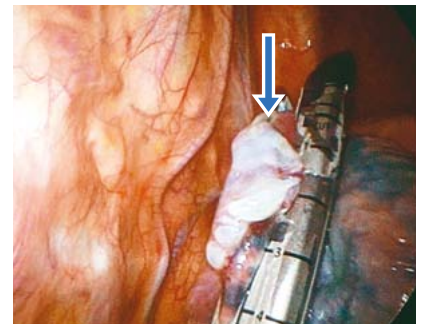


図6. 局所麻酔下胸腔鏡手術の術中写真。自動縫合器で肺嚢胞を切除中。矢印は気胸原因の嚢胞の穴を認める。

症例2：70歳代男性。右肺癌術後、膀胱がん骨転移を認め、重度肺気腫のため、3L/分鼻カヌラでSpO<sub>2</sub>:90%を保持、空気漏れが強く下葉が虚脱した状態でした（図7）。全身麻酔困難症例のため選択的カテーテルによるフィブリン糊肺瘻閉鎖術（図3）を行い、空気漏れを閉鎖。無事転院となりました。

両症例とも、治療選択のため、治療前に胸腔造影と胸部CTを施行しています。治療前に空気漏れの位置を正確に同定できたことが、肺瘻閉鎖を可能にしています。外科的手術困難な症例でも、我々の技術を駆使することにより肺瘻を閉鎖し、社会生活復帰を可能にしています。難治化しお困りの気胸患者さんがいらっしゃいましたら、お気軽に当センターにご相談ください。

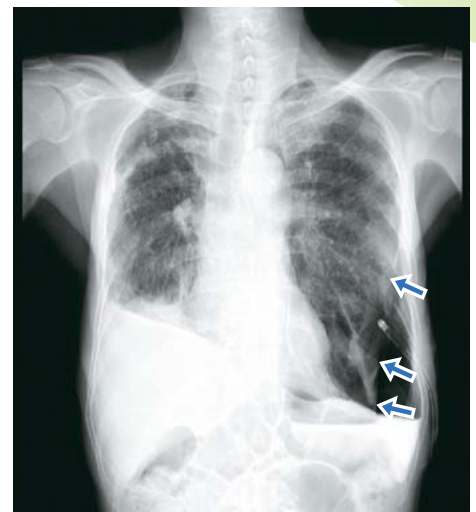


図7. 胸部レントゲン写真。矢印が肺の輪郭。右肺は肺癌術後で体積減少。左肺は下肺野中心に虚脱を認める。

## 冬休み親子病院見学ツアー 開催報告



平成30年1月6日(土)、当院の職員と小学校の子どもを対象に冬休み親子病院見学ツアーを実施しました。

当該ツアーは、子どもに親の仕事を理解してもらうことはもちろんのこと、院内で働く職員が「家族」の存在意義を再認識し、より働きやすい職場の風土づくりに一役買ってくれることを期待して、開催しました。

当日は24組の親子が参加し、集まった子どもたちは、下は年長さんから上は小学校6年生までの30人。院内は子どもたちの元気な声であふれ、賑やかな雰囲気になりました。

当該ツアーでは、オリエンテーションの後、院長室や薬剤部、放射線部、救命救急センターなどを見学し、職員から説明を受けた他、心肺蘇生などの体験をしました。

そのあと、体験コーナーに移動し、顕微鏡での血液観察、松葉づえや車いすを使ってのリハビリ体験、血圧測定などの看護体験など各部署の担当者が行う趣向を凝らした実験や展示などを楽しみました。

最後に、一人ずつ関院長から修了証をもらった後、屋上のヘリポートへ移動して参加者全員で集合写真の撮影をしました。

参加した子どもたちからは、「お母さんが働いているところを見れてよかった」「とても楽しかったので、また来てみたい」といった感想が聞かれ、また、職員からも、「子どもに親の仕事を理解してもらえてよかった」などの感想が寄せられました。

子どもたちにとっても親にとっても忘れられない冬休みの思い出となりました。



院内見学の様子



救命救急センター見学(心肺蘇生体験)

## 第16回ホスピタル・スノーふれあいフェスティバルin2018

平成30年2月5日(月)～6日(火)

寒いけど温かい、手づくりの雪盛り

今年で16回目を迎えた「ホスピタル・スノーふれあいフェスティバル」が、2月5、6日の両日、市立札幌病院敷地内で開かれました。

今年も「みんなで楽しむ雪まつり」をテーマに、病院の前庭などに午後4時半過ぎから8時までの間、ボランティアの会「やさしさジェントル」の会員らが手づくりした雪だるま、スノーキャンドルなど200個ほどが灯され、ロウソクや電飾の優しい光に彩られました。



病院前の通路を彩るスノーキャンドル

## 市民公開講座

## 「防げる！誤嚥性肺炎」～知って得する！飲み込みのメカニズムから予防トレーニングまで～ 開催報告

2月25日（日）、当院講堂において「防げる！誤嚥性肺炎～知って得する！飲み込みのメカニズムから予防トレーニングまで～」をテーマとして、嚥下障害が引き起こす誤嚥性肺炎の原因と対処法に関する市民公開講座を開催しました。

近年、高齢者を中心に肺炎が増加していますが、水分や食べ物が気管や肺に入る誤嚥がその大きな要因の一つとなっており、超高齢社会の日本では、誤嚥性肺炎に関する知識と予防法の普及・啓発は今後もますます重要になってくると考えられます。

当日は、当院歯科口腔外科部長の小野医師から、嚥下そのものの仕組みや嚥下障害の症状等について動画も使用しながら詳しく説明があり、その後、摂食嚥下障害看護認定看護師の奥田さんが、嚥下障害を防ぎ安全に楽しく食べるための姿勢や食べ方、口腔ケアなどについて具体的に解説しました。

休憩を挟み、最後にリハビリテーション科の言語聴覚士の青野さんから、誤嚥を予防するトレーニング法として、嚥下に関わる首や肩、口腔器官等の運動を行う嚥下体操の実践を交えながら、お話しがありました。

また、講演終了後には、参加者から寄せられた質問に講師が答える時間を設け、睡眠時も誤嚥性肺炎の予防法として姿勢や環境、口腔ケアが大切であることや、嚥下に困難がある方の食事介助時における一口の量は浅目のティースプーン一杯分程度を目安とすると良いなど、実際に市民の皆さんが感じられている疑問に、より具体的にお答えしました。

当日は、まだまだ気温が低い中、約180名もの方々にご参加いただき、誤嚥性肺炎に対する関心の高さが伺われました。

公開講座終了後に参加者からご提出いただいたアンケートでは、内容が分かりやすく大変参考になったなど、概ね高い評価を多くいただいています。

当院では、今後も市民の関心が高い疾患や、その予防法等に関する公開講座を適宜開催し、市民の健康増進や疾病予防に寄与するとともに、当院をより身近に感じていただく機会としていきたいと考えております。

## 【演題及び講師】

「なぜ、ヒトは歳をとるとむせやすくなるのか」

歯科口腔外科 部長 小野 貢伸

「安全に楽しく食べるために私たちができること」

看護部摂食嚥下障害看護認定看護師 奥田 美希

「食べる力を保つ」～自宅できるトレーニング法

リハビリテーション科 言語聴覚士 青野 裕範



たくさんの市民が受講しました

この制作にあたっては、協力ボランティアとして、①株式会社 大林組、②新和電機工業株式会社、③株式会社 鈴木電気晃産、④立川工業株式会社、⑤株式会社 セリオむすめや、⑥株式会社 デービスアクトの皆様の御支援をいただきました。

また、市立札幌病院の中央ホールにおいて、フェスティバルの開会式が行われ、今年も病院の聖歌隊の皆さんが「虹と雪のバラード」などのコーラスを披露、多数の患者さんも楽しんでおられました。



病院職員・ボランティアらで結成された聖歌隊

## 当院における 摂食嚥下リハビリテーションの取り組み

リハビリテーション担当課長 小山 昭人

人にとって「食べる」というごく日常的な行為は、単に栄養を補給し健康増進に終始するだけでなく、美味しいものでお腹が満たされたときに訪れる安らぎ感や幸福感、気力の充実感など精神的な面でも好影響を与えてくれます。また家族や友人と食べる食事はその関係性構築に欠かせない行いとして関連してきます。

若く健康なときは特段意識しないものですが、何らかの原因でもしこの行為に差障りが起こり、食べられない、飲み込めないとなったとき、それまでの生活は一変し大きな不安に駆られてしまうと思います。

摂食嚥下障害に対するリハビリテーションの歴史は新しく、欧米では 1981 年に創設された Johns Hopkins 大学 Swallowing Center がその発展に大きく寄与したとされ、1983 年 Logeman により教科書が刊行され本領域の基礎が確立されました。

日本では、1980 年代初めより耳鼻科領域で研究会が開催されるようになり急速に普及してきました。そして 1994 年の診療報酬改訂において「摂食機能療法」が医科と歯科に同時に新設されたことが大きな転機となり、翌年 1995 年日本摂食嚥下リハビリテーション学会が創設されています。その後 1999 年言語聴覚士が国家資格となったことや、2006 年認定看護師制が始まったことも本領域の拡張に弾み

をつけた要因になっています。

当院においてこの取り組みが始まったのは、リハビリテーション科に言語聴覚士が採用された 2008 年からのことです。当時は摂食嚥下障害という概念は一部の医療従事者にしか知られておらず、地道に努力を重ねての仕事でした。そして 2016 年の診療報酬改訂で対象患者が明確化されたことによって、同年 9 月より医療の質向上プロジェクトの一環として「摂食機能療法 WG」が設置され、歯科医師、摂食嚥下障害看護認定看護師、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士（言語聴覚士）らが協働して、院内における普及啓蒙活動を推進してきました。これから高齢社会が進展し誤嚥性肺炎や低栄養など高齢者特有の疾病障害が増加するなかで、本領域はますますクローズアップされることでしょう。社会のニーズに対応できる体制づくりを推進して参りますのでご理解とご協力の程よろしくお祈いします。



言語聴覚士



摂食嚥下障害看護認定看護師

## 市立札幌病院地域医療情報ネットワーク

### 『すずらんネット』の公開情報を拡張しました！

地域連携係 大畑 雅宏

平成 30 年 1 月 15 日より、『すずらんネット』を通じて公開されている、市立札幌病院の電子カルテの情報量を大幅に拡張致しました。

拡張範囲には、医師やコメディカルの診療録、画像診断・服薬指導レポート等、いわゆる専門職の所見の参照が可能となりました。すでに参加登録されている医療機関様には、リニューアルした『すずらんネット』をこれまで以上に活用いただけますと幸いです。

参加登録がまだの医療機関様は、これを機にぜひ参加登録をご検討ください。

#### 従来の公開情報

患者基本	注射	アレルギー
検査結果	処方	画像

#### 今回拡張した情報

診療録 医師・コメディカル	病理検査レポート	内視鏡レポート
眼科レポート	心電図 生理検査レポート	放射線診断レポート
産科エコー	循環器系レポート	診療情報提供書
退院時サマリー	透析記録	循環器動画

など

## 連携医療機関のご紹介



院長 柳澤 克之

12年間ほどの市立札幌病院・糖尿病・内分泌内科勤務を経て、平成26年11月から、病院の向い、桑園メディカルプラザ（サンエーインビル）3階に「桑園糖尿病内科クリニック」を開院いたしました。50歳半ばを超えてからの開業でしたので、不安もありましたが、先号でご紹介されていた、市立病院前整形外科クリニック・佐久間隆先生にご相談したところ、「自分のやりたいことが一番では」とのお言葉に励まされ、決心しました。当初は佐久間先生のクリニックの隣りに構えることができればと思っておりましたが、一足遅く断念。運良く現在入居中のビルを医療モール化する計画が動いていて、そちらにお世話になることができた次第です。

当院は朝8時から開いており、血糖値、HbA1cはもちろん、生化学、末梢血検査等も即日結果が判るよう、院内に検査室を設けました。糖尿病合併症などのチェックに動脈硬化（ABI や CAVI など）や骨塩定量の検査もできる装置も備えています。

## 「桑園糖尿病内科クリニック」

また、管理栄養士が常駐しており、診察前の検査結果を待つ間などを利用し、栄養相談などを積極的に行っています。



プライバシーに配慮した問診室



ゆったりとした待合室

診療は予約制を基本としてできるだけ患者様をお待たせせず、スムーズな診療ができるように心がけています。

市立病院とはすずらんネットを利用し、検査結果や最近のカルテ等の閲覧も可能となり、多くの患者様の情報共有をさせていただいています。また、もともと市立病院に通っていてこちらに移行された方が多いので、何かあれば各科の先生にご紹介し、いろいろとお世話になっており、紹介、逆紹介を通じて、私も患者もその連携の上に安心した診療ができています。なお、当院をご紹介いただく際に、患者様に電話等にて診療の予約をしていただくようお願いめください。今後とも宜しく願いいたします。

### ●診療内容

#### 糖尿病内科/内科

### ●受付時間

月・水・金 / 8:30~12:00、14:00~16:30  
火・木・土 / 8:30~12:00

### ●休診日

日曜・祝日・第1、第3土曜日

### ●電話でのお問い合わせ・ご予約

**011-729-1024**

※ご予約時間は診療の受付時間と同じです



## スタッフの方へ「地域連携センター受診相談専用ダイヤル」をご活用ください

直通☎**011-726-9800** (月から金 (祝日除く) 9:00～17:00)



当センターでは、地域の医療機関や介護施設等、また訪問看護ステーションのスタッフの方にご利用頂く「受診相談専用ダイヤル」を設置しました。緊急以外の受診相談や患者情報の問合せ、訪問看護師指示書に関する事など、看護師が対応します。

例えば……〇〇の検査や治療はできますか？〇〇さんの受診歴を教えてください。〇〇さんの訪問看護の指示を確認したい。などに対応します。

※緊急の患者依頼は「DrtoDr 患者紹介専用ダイヤル☎011-788-6570」へお願いします

※受診相談は内容により診療情報提供書が必要になります

※患者情報の問合せに関する詳細な病状や治療経過については医師宛の病状照会書が必要です

## 平成29年度地域医療支援病院実績報告

(平成29年4月1日～平成30年1月31日)

### ●医療機器共同利用実績

医療機器	H29年度 4月～1月 医療機器別	共同利用 医療機関 実数
PET-CT	15	6
CT	281	45
MRI	206	36
超音波	30	17
骨塩定量	71	6
消化器内視鏡	45	15
RI	151	17
その他	15	1
<b>全医療機器計</b>	<b>814</b>	<b>143</b>

### ●救急患者件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	計
救急患者数	402	527	493	585	525	489	540	520	602	624	<b>5,307</b>

### ●紹介率・逆紹介率

	計
初診患者数	12,895
紹介患者数	10,170
紹介率(%)	78.8%
逆紹介患者数	12,383
逆紹介率(%)	96.0%

### ●開放型病床利用

	計
延べ共同利用医療機関数	10
延べ利用患者数	91
病床利用率(%)	5.9

## 地域連携センターからのご挨拶

地域連携センター 課長 **矢田 美奈子**

今年度も当センターの運営にご協力とご支援を頂きありがとうございました。改めまして、各担当について、ご紹介します。

地域連携係	「すずらんネット」「開放病床」「地域連携パス」「広報誌」等の運用を担当しています。
相談窓口	「かかりつけ医相談」「女性専門外来」「非がんのセカンドオピニオン」「訪問看護指示書の問合せ」などの相談に対応しています。
がん相談支援センター	がんの治療や療養生活に関する不安や悩みについて、対面又は電話で相談に応じています。また「がんに関するセカンドオピニオン」の窓口です。
精神福祉担当係	精神医療センターの入院・外来患者さんに対応し、転院調整や必要に応じて生活支援を行っています。
入院支援担当	外来で入院予約となった患者さんを対象に看護師が入院の説明と患者情報の聴き取りを行い、安心した入院生活が過ごせるよう支援しています。
退院支援担当	看護師と社会福祉士が協働して、入院早期から患者さんを中心に適切な医療機関への転院や退院後の在宅療養生活を支援しています。

※各担当への問合せは市立札幌病院☎011-726-2211(代)で担当名をお伝えください。

【予約センター】☎011-726-7831(直通) FAX 011-726-7832(予約専用)

紹介状を持つ患者さんからの予約、医療機関からの紹介予約、受診後の返書管理などを行っています

【札幌市医師会地域医療室】☎011-707-7705(直通) FAX 011-707-7706(予約専用)

札幌市医師会会員の医療機関からの紹介予約を行っています



市立札幌病院ホームページもご利用ください

市立札幌病院

